

経
済
学
会
記
事

一四二(三七〇)

立命館大学経済学会総会(第二回)

第一部

一、講演会

証券市場政策における逆行傾向

立命館大学講師 住ノ江 佐一郎

資本主義経済の将来

京都大学教授 岸本誠二郎

第二部

一、映画会

「煙突のみえる場所」

経商研究会例会報

第三十九回(五月十一日)

階級的認識の限界

阿部 矢二

第四十回(六月八日)

税務監査の目標について

高尾 忠男

第四十一回(六月二十二日)

近世在郷商人の農地経営

足立 政男

社会見学

第十三回(四月二十三日)

国際見本市見学(大阪)

第十四回(六月二十二日)

関西電力尼崎第二発電所(尼崎)

古河電工大阪伸銅所

学会の発展の足どりは、ますます順準を加え充足以来三年を迎えた。機関誌も内実ともにその体裁を整えるにいたつた。研究成果が熟しながら、こうした形で世に問われることは、われわれ学問の道に歩むものにとつては何ものにもかえがたい喜びである。

すでに学生会員を主体とする『立命館経済学 学生論集』もひろく学生諸君にしましまれ、執筆者は勿論のこと、一般学生に研究努力を喚起させている。まことに学会の将来にとつて同慶といふべきであろう。このような現状にふさわしく第二回春期総会が六月二十五日大学院大講堂で催された。熱心な学生会員および一般会員による終始なごやかな集会のもとに会長の挨拶、経過報告、学生委員の選出を行い、総会行事として左記するような学術講演、映画鑑賞がもたれた。

会員一同とともに、われわれは学会の将来の発展のためにより一層の努力を続けなければならない。